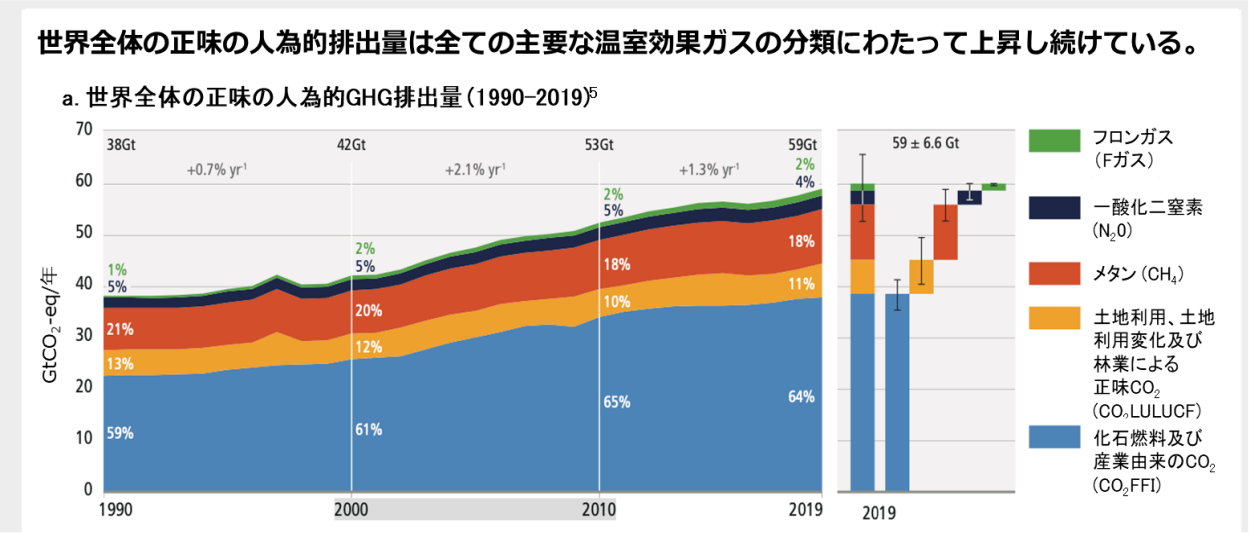
２０２２年サクラだより　８　　2022．４．１９

いきなり「サクラだより」でなく、**地球温暖化**のお話しです。先週の田中修先生の公開講座の中で「地球温暖化」に関してメタンの効果も大きい｛ＧＷＰ（地球温暖化係数）**は 25、二酸化炭素に比べて 25 倍の温暖化能力がある**｝と話されました。参考の為、今月 4 日に政府から発表された IPCC の 6 次報告書（訳文）の中で全世界の最近の温室効果ガスの排出量と各ガス（GWP 基準）の構成比が発表されていますので下記に掲載しておきます。結構メタンの影響も大きいことが分かると思います。先生は「牛のゲップ」を例にとられましたが、勿論これだけでなく、天然ガスの採掘、地球温暖化に伴いシベリアなど極地に近い地域の永久凍土の融解で凍土に閉じ込められていた「メタン」の放出などもあるのですが・・・。IPCC も放出事例に「牛のゲップ」を挙げていますので結構影響度は多きいのでしょう。



１．ソメイヨシノの開花・満開

１－１．今年の全国の桜前線．

ことしの本州のソメイヨシノの開花は東京地区など一部の例外を除き、ほぼ南から北へのパタンとなりました。3 月 17 日に福岡で開花、これに続き九州・四国地域・中国・近畿から関東へ最後は東北・青森が 4 月の 16 日の開花となりました。各地とも、平年に比べ２～6 日早い開花となりました。また、昨年度に比べると全ての地域でかなり遅い開花が記録されました。特に日本海側松江（12 日）、鳥取（8 日）福井（9 日）、富山（8 日）、新潟（10 日）などは降雪の影響か平年並みかやや早い開花でしたが昨年比では可成り遅れました。また、今年の特徴は、前報の近畿地方の例で示しましたように開花～満開の期間が短かったことでした。この傾向は全国的にも同様で九州・四国地区で 10 日前後、近畿～関東で 7.8 日東北では３～5 日となりました。これは、再三述べていますように、冬季の気温が低く花芽の「休眠打破」が比較的短い期間に進行したことと、開花期の気温が高めに推移したことによると考えられます。因みに昨年度の「桜前線」は広島から 3 月 11 日に始まり、これに福岡、東京、松江、長崎、・・・青森へは 4 月 13 日の到着、となりました。開花順もとても前線を書けるような状況ではありませんでした。また、多くの地域で観測史上最速日が記録された年でもありました。

１－２．地域（神戸）のソメイヨシノの開花・満開日

既報のように、私は芦屋と西宮の境界線近くに住んでいますので、観察標準木を近くの芦屋市内の小

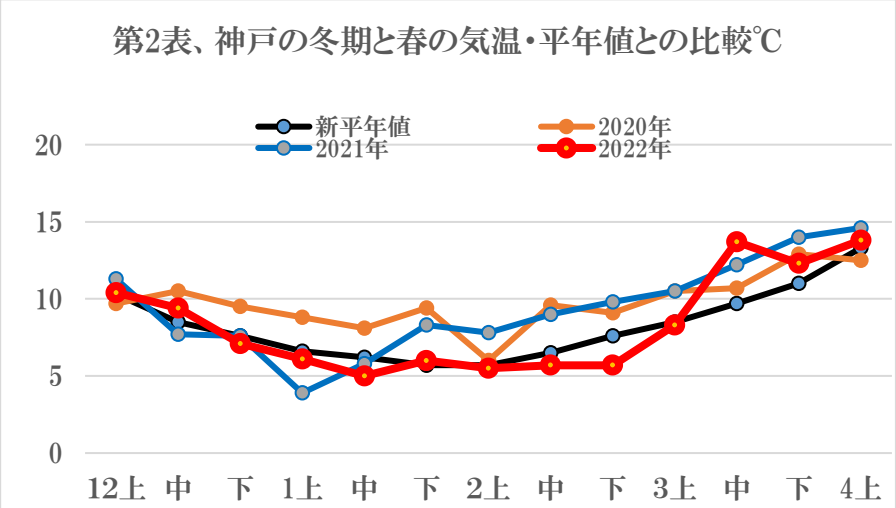
公園に定めています。この公園には５本のソメイヨシノが植栽され、この中では毎年他より２，３日早く開花する樹です。また、地域に最も近い気温観測機関としては「神戸地方気象台」を選んでいます。

そこで、過去３年間の神戸気象台の観測標準木（市内の王子動物園内）と私の観察木、及び寄せられている神戸市内在住の方の平均とを比較してみました。この結果は下記の通りです。

	神戸・標準木			芦屋・私の観察木			神戸市内・観察木平均		
	開花日	満開日	期間	開花日	満開日	期間	開花日	満開日	期間
平年	3月27日	4月5日	10日						
2020年	3月27日	4月3日	8日	3月21日	4月1日	12日	3月24日	4月3日	11日
2021年	3月24日	3月30日	7日	3月16日	3月24日	9日	3月17日	3月30日	12日
2022年	3月25日	4月1日	7日	3月23日	3月28日	7日	3月25日	4月2日	8日

・前報で述べたように、開花に関しては観察者の目視であっても誤差は生じにくいが、満開についての判断は観測者の主観に頼ったもので地域の気温経緯などとの相関性はつけにくいと考えています。少なくとも表のように、当方の観察木は神戸の標準木や神戸市内で観察されている方々よりも開花も満開も早めとなっています。参考の為に神戸地域の３年間の冬期から、初春の気温経緯を第２表に挙げておきますが、当方の観察木の方はいずれの年も冬季の気温経緯を反映し、早くなって来ていますが、神戸・標準木については全国的に早い開花となった2021年でも、それほど早くはなっていません。

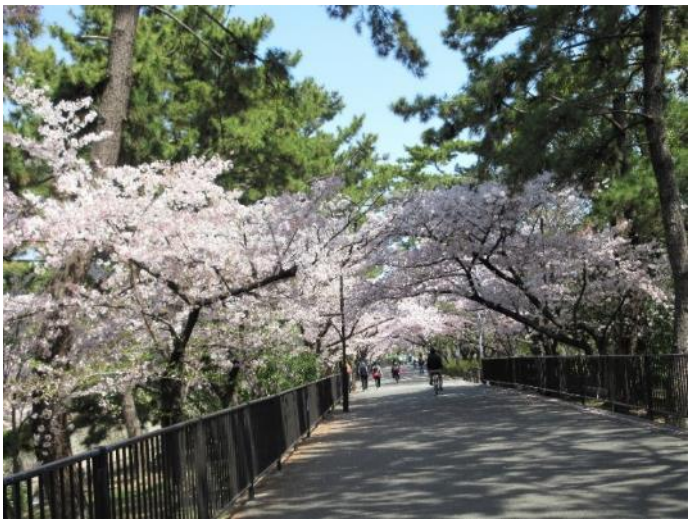
良くある話として、「標準木」近くの木では開花が進んでいるのに何故「開花宣言」されないのか？特に、神戸の「標準木」に関しては再々言われて来たことで、樹齢が高くなるほど開花や満開日が遅くなる傾向にならないか？である。本件に関しては後述したい。



１－３．附近のソメイヨシノの開花経過。

近くに、サクラの名勝地、夙川公園があるのでシーズンには日々の散策コースにこの公園を選んでいる。この場所で開花が始まったのは今年は４月２１日ごろから、大部分の樹が満開となったのが３０日前後でした。また、４月４日に阪急夙川から上流側、６日に下流域の歩行者天国「オアシス」ロードを訪れました。（写真右）ここでは少し花びらが散る程度で眼には満開状態でした。

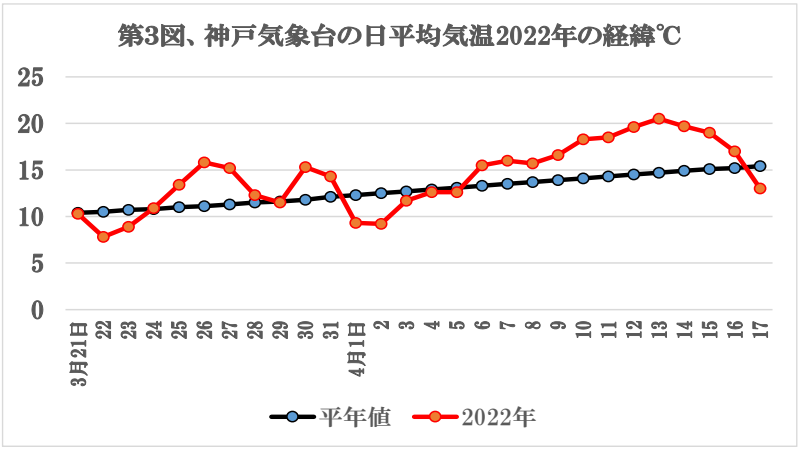
その後、４月13日に上流域を歩いた時には既に葉桜、咲き遅れの花が残る程度でした。代てサトザクラが満開近くとなっていました。



一方、私の観察木は 3 月 28 日に満開状態となった後も、4 月 6 日ごろまでは花びらがチラホラ舞うものの外観上は満開の状態が続きましたが、その後は急激に花数が減り、4 月 9 日ごろから展葉が始まり、葉桜に移行し、現在は数輪の花が残っているだけとなりました。

また、今年は昨年と同様に、長い短枝の枝先まで開花が見られ、一昨年のように枝先に冬芽が未展開のままで残るような状況も見られませんでした。

今年のソメイヨシノの開花後の経緯は以上のようでしたが、この間の気温の変化はどうであったか？と言うことでこの間の日々の気温を第 3 図に示しました。開花の時期から気温は３月末にかけて平年をかなり上回る日が続き、開花から満開までは短期間に進んだが、開花後の 4 月 1 日～5 日は気温が低く、花もちが良くなり、見頃が結構長かった。その後は再び平年をかなり上回る日が続き、落花、展葉が加速されたのがこの附近のソメイヨシノの開花から展葉までの姿であったと思われます。当たり前のことかも知れないが、植物は気温の高低に正直に対応していることが分かる一事。



本来なら、以上でソメイヨシノのお話しは終わりとなるところですが・・。下の 2 枚の写真をご覧ください。

2 枚とも 4 月１８日に近くの芦屋市岩園町の岩が平公園で撮影したもの。まだ結構ソメイヨシノの花が咲き残っているのです。1 本や 2 本ではなく 20 本以上のソメイヨシノがまだ花を咲かせ続けていました。

この公園には 50 本ほどのソメイヨシノが植えられており、半数以上は幹の直径が５０ｃｍを超える大木で開花時には見事の一言。地域住民の恰好の花見スポットとなっている公園です。他の場所ではもう花は殆ど見られないのになぜここだけが咲き続けているのでしょうか？

この問題に関しては、先報で独断議論したソメイヨシノの「満開」が「休眠打破」の時期だけでは決まらないという問題とも共通です。勿論「休眠打破」は必須条件ですが、目覚めた「芽」は自身の養分だけでは完全な花を咲かせることは出来ません。これは「切り枝」の促進テストで確認されています。開花時には根から、水と共に糖類などの養分が供給され、始めて開花や展葉が始まるのです。通常、樹木が水を上方に送るメカニズムは「根圧」（浸透圧）と葉からの「蒸散作用」による負圧であることはご存じの通りです。ソメイヨシノの場合は葉の展葉前に開花するので、水（＋養分）を運ぶのは「根圧」だけになります。若い低木と枝を伸張した老木とではどちらの「芽」に水や養分が運ばれやすいかは自明である。また、なぜサクラは下から上へ花を咲かせるのかも「根圧」を考えれば理解できるのではないでしょうか。

なお、上記の公園の老木に付いて市によって手厚く世話されており、老木とは言え枝葉を大きく伸ばしています。

参考までに、今年の満開時の写真を掲載しておきます。幹の太さ、枝張りが分かると思います。

＊ついでながら、毎年観察標準木と共に報告している近くのソメイヨシノ大木の開花は 3 月 27 日、満開は 4 月の 2 日でした。標準木との差は矢張り上記の揚水で説明付けられると思います。

３．ベニシダレの２期目の開花

従来から、芦屋・山手の散策コース中の六麓荘町に 30 本を超えるベニシダレの古木群のあることを紹介し、今年も第 6 報で開花 3 月 23 日、満開が 27 日であったことを紹介しました。この時の記録は南面の幹線道に面した法面の数本の記録でしたが、4 月 9 日に歩いた時には、下の写真のように後方では満開の姿を見せてくれました。6 報で報告した樹は既に葉桜状、残る 20 本ほどがこのような状況でした。樹種が同じ、樹齢にも差はなさそうなのにこれ程開花期に差のあることは、上記の揚水だけでは説明出来ないミステリーです。

聞いた話では、この一画のベニシダレ群は土

地の大地主が段状の畑の周囲・法面に個人的に植えたものが残されているとのこと。税金対策として？現在も写真のように、畑として存続しているとのことでした。地主の高齢化で樹の世話までは出来ないと枯れ枝なども増えては来ていますが・・・。

４．八重ベニシダレ

私の住むマンションのシンボルツリーは直径５０ｃｍほどの「ヤマザクラ」でしたが、何年か前の台風で半壊状態となり切り倒され、代わりに「八重ベニシダレ」が植えられました。この樹は 3 月 27 日に開花し、3 月 31 日には満開となりました。まだ若木ですのでとても立派とは言えませんが掲載しておきます。

５．ヤマザクラ

最近この附近くの新築マンションの庭などには、ソメイヨシノに代わってヤマザクラが植えられるようになって来ている。土地がらソメイヨシノでは映えないからではなく、病気や害虫に強く、或は幹の寿命の問題から「ヤマザクラ」系が選ばれて来ているのであろう。殆どが、遅咲きタイプで今年もソメイヨシノの終わった 4 月中旬ごろに満開となる種が多いように思われる。

私の散策路の中には、芦屋市の岩園町の保存林には 10 数本のヤマザクラの高木があり次々に満開となります。何しろ背の高い樹林の中にあり、開花し満開近くでないと気付くことはありません。下左が 4 月 2 日に満開となったヤマザクラ左右 2 種、右は甲山森林公園で 4 月 11 日の展葉調査時に撮影したものでこの中には 5 品種程度のヤマザクラ（開花期が終わっているものを含め）が見られるはずです。なお、ここでは 4 月 17 日にも褐色の葉と白花を同時展開する典型的？なヤマザクラがみられました。

本報はこれまで、ご意見、ご質問などあればどうぞ！　　以上